

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年8月24日発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 41】

## JR東日本の経営陣周辺で不気味な事件が発生！

前号では、革マル派がみる党とJR総連との関係について検証し、JR総連・東労組に彼らが相当浸透している危険性が非常に高いことを指摘した。今号では、革マル派の浸透を許してきたJR東日本の労政について検証したい。

JR東日本は、革マル浸透問題についての見解表明を避けてきた。2000年11月、参議院交通情報通信委員会は、理事会の了承の下、会社代表者に参考人としての出席を要請したが、委員会の前日、「当社の労使関係については平和裏に話し合いによる問題解決を基本としており、また、一会社内の問題でありますので、出席については控えさせていただきたいと思っております」との通知を送り、出席を断った。翌2001年6月7日の参議院国土交通委員会では、JR完全民営化に関する審議で当時の大塚社長が参考人として出席し、民主党山下八洲夫議員の質問に対して、以下の通り答弁している（表現は口語から文章調に変更）。

- ・ 東労組は会社の発展に協力してきていると、かつ順調な経営成績を上げる背景にこの安定した労使関係があると判断しており、労働組合としてとくに問題があるとは思っていない。
- ・ 私どもは1人1人の社員をきちっと個人把握をして、そして業務の運営に支障のないようにしていくことに努めている。当社には74,000人の社員がおり、いろいろな考え方の社員もいると思うが、問題はこうした業務の面で彼らが、あるいは社員がきちっと仕事をしていかないと、大変な問題を起こすということになれば、これは放置できない問題であるが、そういった事象はない。
- ・ (JR東労組への革マル派の浸透が) 現実に会社の経営にどういう影響を及ぼしてくるかということが大事であって、私どもは労働組合としてどういう行動をするか、そして会社の発展ということに向けてどういう対応をするかということが極めて重要であるということを申し上げている。

## JR東日本の「事なかれ主義」が革マル浸透と職場荒廃の原因だ！

この答弁から、2001年当時の会社は、本音か建前かは別として、東労組との労使関係の安定を強調し、「革マル派浸透についての指摘は認識しているが、業務上での問題は発生していないのでとくに問題はない」との見解を表明していた。しかしこの時期は、浦和電車区事件や三鷹電車区事件など、東労組がJR東日本の職場で好き放題に振る舞い、集団による糾弾行為がエスカレートしていた頃と重なる。会社の「事なかれ主義」が、革マル派の浸透を許し、職場秩序の荒廃につながったことは明らかだ。

しかし会社幹部は、なぜ革マル派排除にかくも弱腰だったのか。西岡研介著「マンガローブ」には、JR東日本現役最高幹部のA氏の供述として、以下の記載がある(44ページ)。

A氏によると歴代のJR東日本経営陣の周りでは、不気味で陰湿極まりない事件がたびたび起きているという。「あるJR東日本取締役宅のプロパンガスのボンベの周りに、ある日、大量のマツチがばらまかれていました。また、同じ人物のお孫さんが赤ちゃんだったころ、何者かにさらわれ、近くの交通量の多い幹線道路の中央分離帯に置き去りにされていたこともありました。別の幹部宅には鶏の生首が送りつけられ、家族が精神的にまいってしまったという話も聞いています。同様の攻撃は、JR東海やJR西日本の経営陣にも向けられました。むしろそちらのほうが凄まじかったのですが、彼らは耐えて、革マル派と手を切ったのです」